

東洋メビウス

カーテンレール車初導入

東北の飲料輸送で活用



車体には、使用済みペットボトルを再生利用する水平リサイクルの取り組みも大きくアピールした

全長13・95
料輸送で活用する。

東洋メビウスは、東洋製缶グループのティーエムパックが製造した製品を、近隣倉庫に24時間体制でトレーラー輸送している。これまでウイング車では輸送していたが、ウイングの開閉頻度が高いため消耗が激しく、毎年大がかりな修理が必要だった。車両自体も経年劣化による代替検討の時期を迎えていた。

カーテンレールトレーラーの採用で、従来のウイングによる開閉がなくなっただけでなく、メンテナンス頻度の低減により、今後の修繕費削減も期待できるとしている。

(関口 真理子)

20・5トのカーテンレールトレーラーを1台導入した。油圧や電源を使わず手で荷台を横方向に開閉できるため、ウイング車で注意する必要のあった屋根の高さに関係なく、荷降ろしできるのが特長。雨水の侵入防止対策も施し、耐久性にも優れている。

ウイング車より修繕負担減

8月26日、仙台市主催で出発式が行われた。今後は仙台市内の工場から仙台港周辺や山形市、岩手県北上市の倉庫への飲

「ロジ白書」公開

セイノーHD

業界課題と将来像提示

セイノーホールディングス(本社・岐阜県大垣市、田口義隆社長)は8月26日、物流業界を取り巻く社会情勢と業界動向を網羅的にまとめた「ロジスティクス白書」を同社ホームページで公開した。

荷主、運送会社、ドライバー、倉庫会社など物流に関わるプレーヤー全員の参考となる情報提供が目的。業界の人手不足や構造改革の必要性を踏まえ、政治・社会・経済の動向と照らし合わせて、業界全体の課題と将来像を提示している。

東洋メビウス(本社・東京、篠山健司社長)は8月、仙台支店(仙台市)に、カーテンのよう荷台を開閉できる「カーテンレールトレーラー」を導入した。同社初